

令和二年度第三十二回夕暮祭短歌大会入賞歌

秦野市長賞

(敬称略)

かうかうとピーナッツ畑照らす月園バス二台の掘り採りを待つ

神奈川県伊勢原市

細谷 毅義

秦野市教育委員会教育長賞

葎き替えた屋根の若さに青い空遠い記憶がそつと耳打ち

神奈川県横浜市

前田 美知子

秦野短歌会会長賞

もやひ綱いま張り切りて客待ちの船の生簀に春の潮満つ

愛知県名古屋市

清水 良郎

山田吉郎選者賞

飛ぶ鳥を空に見上げて池の亀のそりと濁りのなかに沈みぬ

東京都世田谷区

野上 卓

寺尾登志子選者賞

エリ先生と呼ばれてるらしわが娘仮設テントに防護服つけ

埼玉県和光市

井上 美喜枝

佳作

こんな日も大きな空がそこにありちっぽけな僕を見下ろしている

埼玉県川口市

石井 あづみ

お袋逝くないと言うまで逝くな親孝行が終わってないぞ

神奈川県小田原市

伊藤 一男

萌え初むるフリージアの蕾一茎を雛の膳の色取りとなす

神奈川県厚木市

井上 勝朗

包帯で覆わるる耳横写をする孫のなかなるゴツホに出会う

神奈川県相模原市

太田 節子

畑なかにいっ零れたる向日葵の芽吹く辺りを避けて耕す

神奈川県高座郡寒川町

金子 寿宣

寝静まる星空の下に月見草素振りの音が天まで届く

茨城県常陸太田市

菊池 直哉

子らの声戻りくる日を待つ公園シーソーしづかに夕暮れを聴く

神奈川県川崎市

久保田 聡

罹患せばまず生存はおぼつかねとまれ秋への落花生播きゆく

神奈川県秦野市

久保寺 富男

偽りは「人の為」かと迷いつつ 頼むティラミスまだほろ苦い

東京都世田谷区

小池 優希

患ひし義父の犢鼻褌替ふる時「せい」の」と腰を義父は擡ぐる

神奈川県伊勢原市

小林 啓子

忘れ物 遠く届けにゆくような 通夜への夜道に 浮かぶ外灯

神奈川県足柄上郡中井町

竹 和世

木染月豆つぶくらいと指の先見せて娘は身ごもり告げる

鳥取県東伯郡琴浦町

中本 久美子

稲妻か甘露の雨か黒南風に葉擦れてさわぐ青き稲葉は

徳島県小松島市

西 教明

胎内をはじめて小さくノックされ優しく目覚める二十週の朝

京都府宇治市

丹羽 紗矢香

など汝ねは雲居の彦星のみぞ見る 吾の片思ひとは地で繋がるを

広島県東広島市

森 慶真

地平線 水平線まで 縫うように 母軽やかに 足踏みミシン

福井県福井市

山下 さやか

陽炎に風魔のごときワザありて鹿の背に乗り丹沢登る

神奈川県伊勢原市

山田 ゆたか

つつましく盆地に生きて大根引く茜の富士をたふとしとして

神奈川県秦野市

横溝 彰

朝九時の HRが 生まれば スマホの中で 繋がるクラス

徳島県吉野川市

渡辺 あみ

公園に太陽系の妻とみて何となくとる社会的距離

奈良県奈良市

和田 康